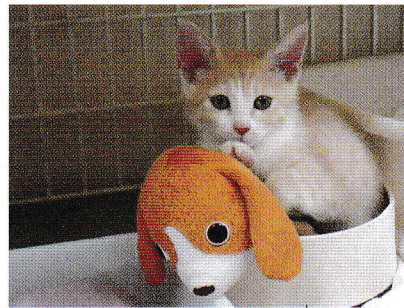


猫の **早期** 不妊手術

定義	1 4 週令以下（日本では、5 カ月令以下でも早期とみなすことも）
早期メリット	子宮卵巣と精巣の大きさ↓、出血量↓、体脂肪率↓、切開創↓、 麻酔量↓、手術時間↓、回復時間↓
早期デメリット	長骨が長くなる傾向
特に推奨	TNR 現場、保護施設、譲渡予定、多頭飼育、外出猫、外飼い猫
社会背景	* 動物管理施設での殺処分の多くは、依然として子猫 * 殺処分数減少にも関わらず、行政機関への猫クレーム多数 * 近年の自然災害多発に伴う、被災地の動物繁殖問題浮上 * 日本人の高齢化・核家族化と関連する飼育継続不能例の増加 * 多頭飼育崩壊事例の多発 * 譲渡活動の活発化—譲渡率の向上、不適切譲渡の予防

不妊手術適齢期です！ 2.5 ヲ月 1.1 kg

今度の譲渡会デビュー決定！
フクチン、虫下しもバッチリ
なにより不妊手術済だし
里親さん希望殺到ね
どの人にしても
迷っちゃう・・・



早期不妊手術	P 1 ~ 3	地域猫活動	P 8 ~ 9	生活のヒント	P 11
秋のイベント	P 4 ~ 7	町の中で	P 10	事務局より	P 12

早期不妊手術

新しく猫を飼い始める方へ 早期不妊手術のお勧め

オリーブの木動物病院 遠藤文枝

日々の診療の中で、最近急に多くなった案件があります。子猫を下さい。子猫を拾いました。子猫を貰いました。子猫を買いました。これから何をしたらよいですか？もちろん、今に始まった話ではないのですが、何と云うか質が違います。猫飼育経験がほとんどないけれど、猫との生活に強く憧れていたり、いたいけな子猫を自分が助けてあげたいと本気で考えていたり。いわゆる猫ブームの影響でしょうか？自ら積極的に猫に関わってくる方が増えたように思えます。確かにテレビ番組や写真集、ブログの人気猫達の可愛いらしさ、ユニークさには、多くの人が魅了されているようです。単身世帯や少人数世帯の増加に伴い、猫と暮らすことは、楽しい我が家の一助になるかもしれません。保護猫を迎えたなら、不幸な猫を救えます。ついにはまってしまって、もう1匹また1匹と増やしてしまいがちです。でもそれはとても危険な事です。この新しいタイプの飼い主の猫ライフと、飼われた猫そのもののライフが、最後まで幸せなものであるように、できる限り早い段階で、将来を見通したアドバイスをさせて頂きたいのです。

伝えたいことは山ほどあります。その中でも基本中の基本はどうしても不妊手術です。それも、一度も発情させない交尾させない生ませない、生後5か月以内の手術をお勧めします。特に保護猫で譲渡予定の猫、屋外に行く猫、多頭飼育で管理の行き届かない猫など将来の不透明性の高い個体については、さらに早期の3-4か月以内の不妊手術が必須と考えます。最近、猫を飼い始めた比較的若い世代の飼い主は、雑誌やインターネットで情報を得ていて、不妊手術の相談を最初からされる方も多く、その熱心

さにはいつも感心しています。しかしながら、せっかく意識が高いのに、情報の質と量が多様すぎて、迷っているうちにベストな機会を逃してしまうのは残念なことです。うっかり外へ出てしまった後での妊娠事故（あえて事故と呼びますが）や高齢になってからの乳癌発症は、早期手術さえしていたならほとんど防げます。子猫の外見のいたいけなさから、メスをいれることに恐怖を覚えるのは理解できます。しかしその外見に反し、子猫の回復力は驚異的です。獣医師サイドでは体調の判断や保温などに配慮しますが、総じて成猫より手術しやすいと思います。子猫の子宮卵巣は小さく、その上脂肪が少ないため探索しやすいので、手術創も時間も短くすみます。術後短時間で何事もなかったように元気な猫に飼い主もホッとしています。早期不妊手術済の成猫も、早期だけが原因と考えられるトラブルに私は遭遇していません。

子猫と不妊手術をペアで考え、先手を早々に打つことで、個人も社会も安心して猫と共存できるようにすることを願います。

アンソニー君	8才	5.3 kg
もんちゃん	3カ月	1.2 kg



私たち早期不妊手術済み仲間。
2匹とも体重1kg以下で手術を受けました

日本でも

猫・犬の

早期不妊・去勢手術

を行う獣医さんがふえています！

早期不妊・去勢手術の利点

アメリカの著名な
獣医学博士 M、マッキー氏
によると



猫や犬の不妊・去勢手術は

- ・のぞまれない妊娠を防ぐ 他
- ・生殖器系の病気が未然に防げる
- ・性格がおだやかになる など

今やエサを与えるのと同じくらい
重要なこと これは知っているよね



もちろん！ でも
不妊・去勢手術は
生後半年位以降に
するものだって思ってたよ
早期の方がいいの？

いいことはたくさんあるんだよ

- ・手術時間が短く出血が少ない
- ・手術部位の組織が弾力性に
富んでいるから縫ったり
縛ったりしやすい
- ・使用する薬品量が少ない
- ・手術される動物の
不快感が少ない
- ・合併症が起りにくい
- ・精神的にも肉体的にも手術後の
回復が早い などなど

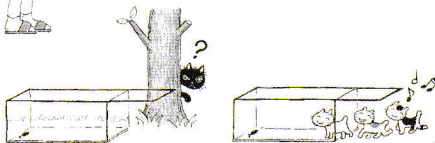


へエ～
獣医さんにとっても
ボクたち（猫）にとっても
いいことばかりなんだね
もっともっと広まるといいナ～

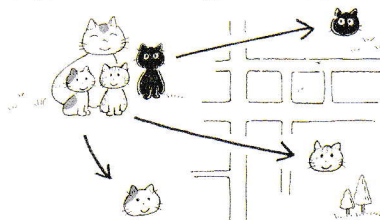


私たち世話する側にとっても
いいことばかりよ

外猫の場合、成猫より幼猫の
方が捕獲しやすい



成長すると生活の場が広がってしまうが
幼猫のころはママ猫といっしょ



手術済みで里親さんに譲渡できるので安心

何らかの理由で手術が出来ず不幸な命が
増えるという悪循環を完全に断ち切れる

現在

長野県動物愛護センター

神奈川県動物保護センターでは猫と犬を
譲渡する際

生後2～3ヶ月で不妊・去勢手術を
行っています。

追跡調査から早期不妊・去勢手術の有効性が
評価されています。

早期不妊・去勢手術が安全である ことが広く認識され、 動物たちと幸せに共生できる社会 になることを強く望みます。



日本捨猫防止会
TEL/FAX 03-3472-8185 045-982-8575
URL : <http://www.sutenekoboushikai.com>

イラスト/ながさわけいこ

動物フェスティバル神奈川 2016 in あやせ

10 月 23 日 (日) 10 時～ 15 時

神奈川県内各市で順次催されている動物フェスティバルが、初めて綾瀬市で開催されました。当日はお天気にも恵まれ、県内各地からたくさんの方々が来場し、大変賑わいました。犬を連れて来た方も多く、土地柄か中型犬、大型犬も多く見受けられました。

ホールの中では、子供達が描いた「動物を責任持って最後まで飼うこと」を啓蒙する「愛護ポスター」が展示され、又、長寿犬・猫の表彰もありました。

私は小ホールで上演された保護犬たちのミュージカル「ワンライフ」を観ました。いろいろな境遇で動物愛護センターに収容された 4 匹の犬達の運命や末路が描かれていて、人間の愚かさや自然災害の恐ろしさを見せつけられ、感慨深い作品でした。多くの人、特に子供達にこのミュージカルを観てもらい、現実を知って、その先にある「自分達にできること」を考えてもらいたいと思いました。

又、犬や猫も長生きするようになり、「老齢の犬や猫と暮らすには」という講座もあり、いまだきの問題も取り上げられていました。

広場では聴導犬や介助犬、そして犬のしつけのデモンストレーションが行われたり、ブースの中では犬や猫の譲渡会もあり、他の団体の方々とも交流することができました。

当会では猫についての相談を受けたり、アンケートを書いていただく中で、不妊手術の重要性が理解されてきていると感じました「地域猫」や「TNR」という言葉が浸透しつつある中、最近では「多頭飼育崩壊」が問題になってきています。

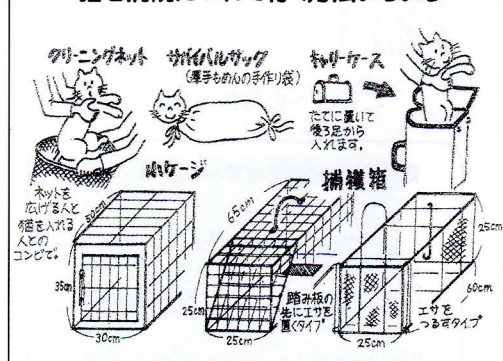
猫のぬいぐるみを入れたお出かけ袋 (サバ

イバル・バッグ) は来る人の目を引き、「動物病院に猫を連れていくのに四苦八苦している友人に薦める」といって購入された方もいました。 (小林 記)

参加者：太田、小林



猫を病院につれて行く方法いろいろ



捕獲箱の貸し出し等のご相談は事務局へ

動物愛護フェア・アンケート 集計表

今年、神奈川捨猫防止会が参加した秋のイベント3ヵ所
川崎市 49 人 綾瀬市 28 人 青葉区 23 人、計 100 人の回答結果です。

	設 問	知っている	知らない	無回答
1	メス猫は生後半年でママになる	87	12	1
2	妊娠する前に不妊手術を受けさせることが大切である	96	3	1
3	猫の妊娠期間は2ヵ月である	79	19	2
4	メス猫は毎年2～3回、赤ちゃんを産む	81	17	2
5	オス猫も去勢手術が必要である	96	3	1
6	さわれない猫でも捕まえる方法がある	85	13	2
7	自治体によっては、不妊去勢手術費用の助成金制度がある	94	5	1
8	外猫で耳カットしてある猫は不妊去勢手術済みである	85	14	1
9	猫を捨てるのは法律違反	95	4	1

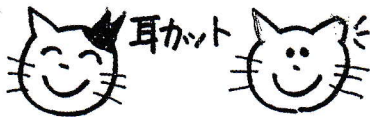
* 設問3, 設問4 については、どこの会場でも知らない人が多かった。

* 設問6, 設問8 については、今後、知らない人に浸透していくよう啓発に努めたい。



ご近所への報告の見本

猫の不妊・去勢手術済みのしるし



麻酔のかかっている手術中にしてもらったから痛くなかったヨ!

<朝日新聞の記事より>

昨年度までの3年間、犬の殺処分ゼロを続けている川崎市が、11月を「いのちをまなぶ月間」と位置付けて、市民公開講座や街頭啓発を通じ、犬や猫の正しい飼い方を知ってもらうキャンペーンを行った。

11月12日は中原区役所で、日本獣医生命科学大学講師、入江真己さんの「猫との幸せな暮らし方」と題する講演があった。川崎市は昨年度、猫を9匹処分した。今年度は犬はゼロ継続、猫もなるべく減らすことを目指している。「ペットの扱いで困ったことがあれば、各区役所の保健福祉センター衛生課に相談を」と呼びかけている。

青葉区民まつり

11月3日(祝)10時～15時

朝方まで雨が降っていたのにもかかわらず今年も晴天に恵まれ、多くの人々にぎわいました。今年の区民まつりは「地域の力」をテーマに「共に進もう心の絆を青葉から」をキャッチフレーズに実施されました。

秋の1日を楽しく過ごせる活気あるステージと多くの模擬店が出展。

私たちは例年どおり、外のブースではグッズ販売、体育館内健康フェスティバルのブースでは猫についての相談やアンケートを実施しました。新規に地域猫活動のパネルを作成したり、猫の感情を意思表示したラミネートのパネル等を、アルミフレーム付のパネルにと一新しました。その為、多くの人が足を止めて見てくださいました。相談も以前に比べ苦情を言う方が減ってきたように感じました。今後、猫との共存を考え、印象深いパネルを展示し、啓発に努めたいと思います。

(清水 記)

参加者：有馬、太田、清水、長澤、松丸



南相馬便り

今年、7月12日、南相馬市小高区と原町区の一部に出されていた避難指示が解除され、住民は自宅に住めるようになりましたが、戻ってきている人は震災前の1万3千人の内、千人位です。生鮮食品や生活用品を買うお店はまだありません。

震災以来ずっと犬猫救済をしてきました。今は猫救済が主です。震災時には60箇所あった餌場は統廃合したりして、今は約25位に減ってしまいました。その上、住民が帰ってくると猫の苦情等がなくて無くなった餌場もあります。また、荒廃家屋の解体が進んでおり、飼主さんの家や物置が解体され使えなくなった所もありますが、今ある餌場を守っています。

餌場はにゃんだ一えさ箱に食べ口箱をつけて猫以外は食べられなくしています。えさ箱の中は汚れるので時々洗って、きれいにしたえさ箱と交換します。男性が手伝いに来てくれた時に交換しています。今年は雨がなくてえさ箱の中まで雨が落ちて餌を悪くされました。何度も交換しましたが、力仕事で苦労しました。猫たちを捕まえられないので、缶詰の中身にノミ・ダニ予防薬を入れて食べさせています。猫たちに食べさせたいの一念で給餌を続けています。これからも給餌と猫保護活動を続けます。(南相馬市 吉田美恵子)



この餌箱は雨が降って苦労しました。雨が当たると、餌箱の中の餌が悪くなります。

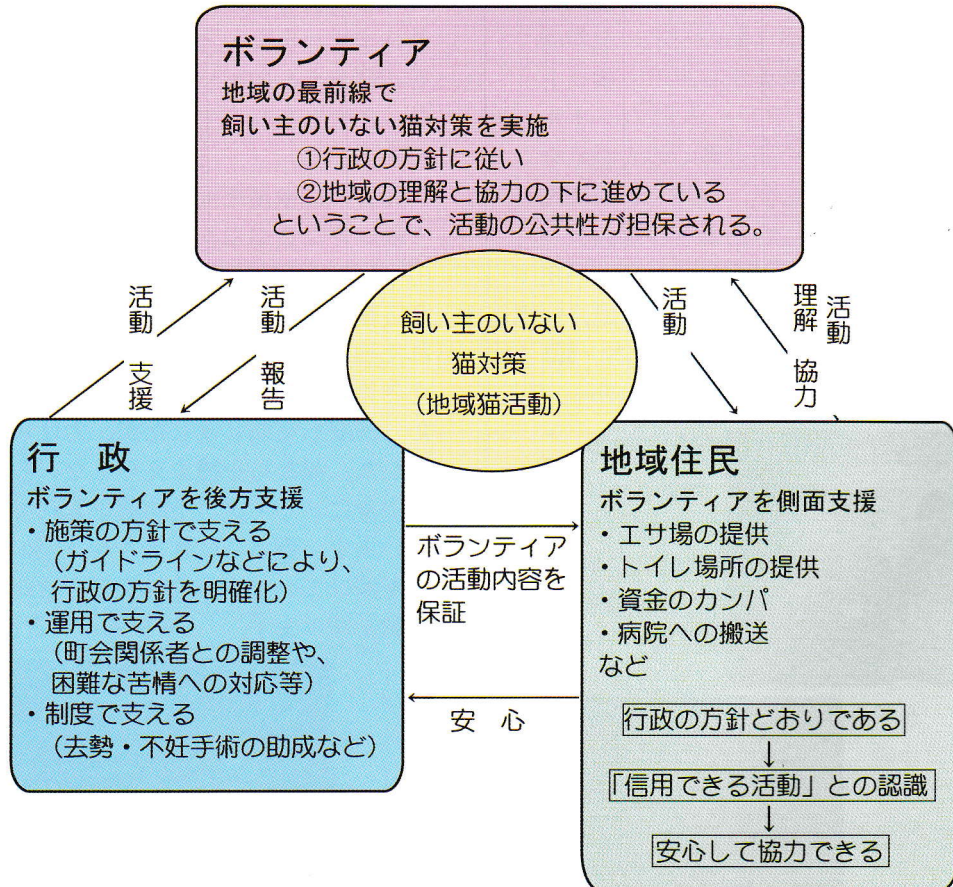
今年の 7 月 30 日に、地域猫活動を長く続けているグループ NPO「いのちにやさしいまちづくりねこだすけ」が川崎市内で勉強会を開催しました。当日配布された資料の一部を、執筆者のご許可を得て、ここに掲載させていただきました。

●地域猫活動は行政、地域、ボランティアの三者協働で成功する

猫と人が共生する地域づくりは、下図のとおり、三者協働によって成功する。

ボランティアと行政のみの二者連携が見受けられるが、地域の理解が不十分な場合、ボランティアが精神的に孤立するため、長続きしない。

また、行政の支援を受けずに活動しても、地域住民に「公共性のある活動だ」ということが分かってもらえないので、苦勞することが多い。



●よくある意見

猫は保健所で捕獲して処分すれば良いのでは？

各自治体によってそれぞれ事情を抱えており、対応は様々。

しかし「人と動物の共生する社会」を目指す観点からすると、安易な引取りは避けねばならない。外飼いの猫を処分してしまうリスクもある。

※東京都の場合

犬猫等の収容は、東京都動物愛護相談センターが行っている。

しかし、猫については、外に自由に出している飼い主がおり、外をウロウロしている猫が飼い猫かノラ猫か区別がつかないため、歩けないほど負傷している等の一部例外を除き収容していない。

エサやりを止めれば良いのでは？

- ① 猫はテリトリーを重んじる動物なので、エサやりを止めても、お腹を空かせて地域（テリトリー）に留まる。
- ② 飢えた猫が、ゴミを漁ったり、僅かな食べ物を巡ってケンカをしたり、屋内に侵入して食べ物を盗んだりして、二次災害が生じる。
猫はなんとしても生きようとする。おとなしく餓死する動物はいない。
- ③ それでもエサを与えない状態を続ければ、いつかは地域からいなくなる。しかし、エサを求めて近隣の地域に移動しているだけなので、狭い町内でノラ猫の押し付け合いをしているだけ、ということになる。

しかも、移動先のエリアで繁殖し続けて大迷惑。

エサやり禁止では、問題の解決にならない

エサをやろうがやるまいが、猫は本能に従って繁殖するので、
必要なのは ①増加防止と②被害対策
そして、③この考え方を地域に理解していただくこと

地域アドバイザー 元・練馬区保健所地域猫担当者
石 森 信 雄

NPO「いのちにやさしいまちづくり ねこだすけ」:

猫の捕獲箱を米国から導入して紹介し、各地にセミナーを通して猫との共生を発信しているグループです。

外暮らしの猫と付合う

Nさん夫妻は犬の飼育経験はありますが猫との付き合いはありませんでした。そのNさん宅の駐車場で猫に餌を与えているお婆さんがいましたが、余りに堂々とした態度と「これだけが楽しみでねえ・・・」の言葉に元々が動物好きのN夫妻ですから「餌をやるな」とは言えなかったそうです。

ところがある日を境にそのお婆さんがぱたりと来なくなりました。が、それでもそこに集まる猫たちが哀れで餌を与え始めました。ある夜1匹が大声で吠え出して思わず窓を開けると飛び込んで来た猫が二階へまっしぐらに駆けあがり・・・翌朝にはふわふわの毛玉が4つ・・・最近、太ったなーとっていた猫が出産していたそうです。

犬は知人から譲り受けたので子猫も貰われるだろう、余り小さいと貰う方も大変だろうと子育てする母猫を見守っていました。

一カ月ほど経ってたまたま知りあった猫オバサンにこのことを話すと「今時、ノラ猫の子を貰ってくれる人なんていないわよ。ノラの子なんてどんな病気を持っているかわからないのよ！」

目の前、真っ暗。自宅の建て替えのための引っ越し先はペット不可。解体の日は決まっているし、高齢家族の世話もある。夫婦ともに病院通いをしているので親子猫5匹を一生飼いつける自信も経験ありません。

アチコチ相談を重ねて行政経由で防止会にたどり着きましたが、その時は、全ての責任は不妊手術をしなかった自分にあると、母猫は不妊手術後、現場に放してやり、子猫は安楽死と心に決めていました。

相談を受けて出向いてみると子猫はもうピ

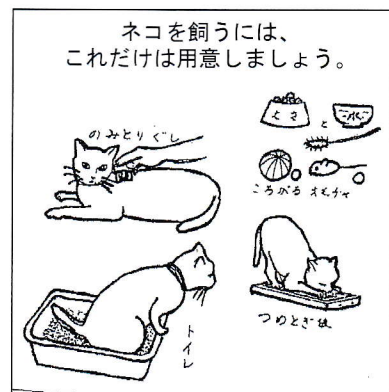
ョンピョン飛び跳ねるイキモノ＝生命力に満ち溢れています。

出産が2月で、まだいわゆる「子猫のシーズン」ではなかったので、ダメで元々とネット掲載すると、来るわ来るわ、問い合わせ殺到！。2匹飼育希望のお宅を優先的に厳選して(?)4月に2匹、5月に2匹を「お試し飼育」に届け、1週間後、目度く正式譲渡に至りました。更に1件のお宅では「建て替えが終わるまで」という条件で母猫も預かってくださることになって♪バンザーイ！。

Nさんはそのお宅と連絡を取りながら11月の新居完成＝母猫の引き取りを心待ちにしています。これから初めての猫との暮らしが始まりますが、猫もヒトもまだ初心者・・・互いに折り合いをつけながら快適生活を目指すことでしょう。

4匹子猫を預かるだけでなく、通院、投薬を続けてくれたYさん。仕事を休んでまでお届けに同行してくれたSさんには、ただただ感謝のみ。

ヒトも猫も一人では生きられない・・・友人、知人、そしてご縁に恵まれた今回の出来事でした。
(川崎市 中曽根幸子)





<利用者の声>

愛猫ジローは13歳。数年前から目やにが多くなりました。抵抗激しく目薬を塗るのは至難の業。目薬は肝心の目ではなく殆ど顔の周りの毛についてしまいます。そこでサバイバルサックに入れ、手も足も出せなくして、おメメにばっちり塗ってあげました。耳掃除や尻尾の手入れにも使っています。

(Y・M)

マミを病院に連れて行く時、今までの籐カゴをやめて、サバイバルサックに入れ、自転車の前カゴにタオルを敷き、ボンと乗せただけで行きました。

待っている間も袋のままダッコで静か。顔

だけ出して診察。注射時にお尻の方からめくり上げ、3本ブスブス・・・怒っていましたが、手も出せず・・・でした。先生も助手の人も(袋に!)感心していました。(U・S)

うちの猫は獣医さん嫌い。診察台でキャリーケースを開けても奥にうずくまって出てこない。引っぱり逆さにしたり、やっとの思いで取り出せば、診察台から逃げようと必死だ。スタッフ一同でバスタオル被せて押さえつければ、断末魔の叫び。しかしサバイバルサックを使うようになってからは、今までの苦労がウソのようだ。この袋に入った以上、逃げようにも逃げられないので、あきらめがつくらしい。(N・K)

＜日本捨猫防止会との統合＞

10月中旬、会員の皆様には葉書にて、神奈川県捨猫防止会(KSBと略す)は来年度(2017年1月)より、日本捨猫防止会(NSBと略す)と統合して活動するとお知らせを致しました。

KSBはもともとNSB会員であった太田成江さんが猫への愛護・啓発活動を進めるには地域の行政との密接な連携が必要であると認識され、NSBとの連携のもとKSBを設立されました。横浜市・川崎市を中心にKSBは神奈川県との行政と関連して、イベント等に積極的に参画し、会員数も増えていきました。一昨年度より、太田会長がご家族の介護やご自身のご高齢により、NSBとKSBの代表・会長を兼務することの負担が大きく、この際、NSBとKSBは統合して太田代表のもと、日本捨猫防止会として活動していくことに致しました。会計年度も会費も一昨年度よりNSBと同じ1月～12月と致しましたので支障ありません。

KSB会員はもとより、KSBを応援していただいた獣医師先生、行政の担当者の方々、地域猫の活動にご理解・ご援助を頂いた方々、今後とも新しい日本捨猫防止会へのご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

事務局：〒140-0004 品川区南品川6-8-17
第2甲南荘102
TEL/FAX：03-3472-8185

当面は、太田会長(TEL/FAX：045-982-8575)にご連絡いただいても結構です。

平成28年度、KSB事業報告及び会計報告は、来年、別途、送ります。

《本の紹介》

「動物病院を訪れた小さな命が
教えてくれたこと」

磯部芳郎著 現代書林 1500円

1962年に獣医科大学を卒業以来、今日まで50余年、動物医者としての人生を歩んで来られた磯部獣医師の動物との関わりを、笑いあり、涙あり、感動ありで綴った感動のエッセーです。著者と親交のある作家・津村節子氏からの「いのちを見つめて」という短文も掲載されています。



「キャットストリート」

久世アキ子著 アートダイジェスト
1500円

会員 久世アキ子のユーモアとネコ愛の溢れたアート絵本。近隣のトラ猫の救護活動をし、トラ猫「ソクラテス」のキャラクター雑貨の店を営み、現在9匹のネコと暮らす。



編集：太田、清水、吉田



捨猫防止会ホームページ

<http://www.sutenekoboushikai.com>